

大分市・自転車通行帯視察バスツアー報告

自転車通行帯安全マップづくりワークショップ・第3回

1. 日時： 2014年8月18日（月）午前7時～午後8時20分

2. 参加者： 合計 12名（敬称略）

うべこまち：村上、兼久、三浦、小林、上田 5名

一般：松原、近藤、渡辺 3名 宇部市：元井、藤永、池森、3名 学生（村上研）：玉川 1名

自転車積載、三浦1台

3. スケジュール： 宇部～大分 約185km 3時間半 中型バス27席

7:00 宇部新川駅前・宇部市役所前

10:50 大分着

11～12 大分市役所 都市交通対策課より説明

13～15 徒歩で視察： 都町東春日線（自転車専用レーン）、
商店街 駐輪施設、駅ガード下駐輪施設、
区画整理の歩道に自転車通行位置

15:10 大分豊府高校へ移動（大分市大字羽屋600番地1）

15:30～16:15 大分豊府高校・・・（9名+大分市）生徒3
名、教員：自転車マナーアップモデル校取組

16:30 大分駅発

20:15 宇部市役所経由、宇部新川着



4. 訪問先

・大分市 都市交通対策課 自転車総合対策担当班： 定野
参事補、黒枝参事補、穂積専門員、久綱専門員、吉岡主査、
小野氏、別の課に移動の松尾氏

・大分県立大分豊府高校： 教頭 三代先生、生徒指導 木
村先生、生徒会の生徒さん

資料： 大分市自転車利用基本計画、大分市自転車走行空間
ネットワーク整備計画、自転車走行空間整備に関する取組に
ついて（プレゼン資料）、OITAサイクルフェス！！2014開
催説明会資料

大分豊府高校における交通安全指導、平成26年度自転車危
険マップ



5. 感想カードより

（1）大分市の輪道対策はこれから宇部に導入に当たり、大変
貴重で有効になることと思う。市役所の床がとてもきれいで、
ロビーが広く明るかった。駐輪対策にしてもしっかりしており
参考になった。豊府高校の生徒達の工夫された対策、ポスター
作って外に立って交通の教育と実践している。大いに役立った。

このイベントに関係した大分市の職員の方々、当宇部の職員
の方々に厚くお礼申し上げます。



（2）今回の視察旅行で感じたことは、ハード面での整備は時代の流れの中で進むべき方向は時間の早い遅い
はあるものの止めることはできないと思ったこと。その中で、行政は明確なビジョンを持つべきこと。流れを
止めようとしたら、遅らせたりする力に対しての働きかけの必要性。もっとも印象に残ったことは、高校生た
ちの意識の高さ。宇部でもソフト面の充実が大切だと痛感したこと。

(3) モデル校の高校生たちがしっかりしているのに頼もしさを感じた。

ハード、ソフト両面から進める必要があるが、ハード面の進展は時間がかかることを思うと、その間、ソフト面の充実を地道に続ける必要があると感じた。通行に関する法的なものや、自転車の乗り方、安全啓発など、学生のみならず、ドライバーや社会人に対しても必要だと思う。

(4) 「大分市自転車走行空間ネットワーク整備計画」が大変参考になる。特に、ソフト面での

・年代別取組み p 6 ・ソフト施策の3つの柱 p 6 ・推進体制 p 7

が、今後の宇部モデル路線のうべこまちの進め方に対して参考になろう。

中学・高校生への走行マナー、安全活動は生徒の自主的活動を盛り上げることで、宇部行政（教育）のバックアップが大切と思った。（上田）

(5) お疲れ様でした。大分市では数年前から地元なりによく説明をされて、理解してもらってからカラー化されているようで、宇部市でも地元によく説明を行った上で施工する必要を感じました。先進地としての視察で、効果の程を期待したが、半分程度と残念な気がしました。通ってもらうには、小・中・高校生からの啓発、教育が重要と感じました。

(6) 自転車レーンの設置は設置することよりも、利用者の人達に自転車は車道を通るものであり、左側通行であると意識付けていく活動の方が重要であると思った。そして、それは車道を普段利用する車、バイク等の運転者の理解も必要不可欠だと思う。豊府高校の活動はとても素晴らしい物であるとともに、全国の自転車利用の多い学校は模倣していくべきだと思う。（玉川裕太）

(7) 企画・実施に関しては大変お世話になりました。大分市内現地での行程については、ややタイトだったので、出発時刻、帰着時刻それぞれ1時間程度早く、遅い予定でも良かったのではないかと思います（6時出発、21時帰着）。

徒歩での市内視察は、とても良かったと思います。

豊府高校での意見交換も大変有意義だと思いました。彼らは、道路の不備な状況と戦っていると感じました。彼らの日常の活動として「交通KYT」を実施すること、「交通HH（ヒヤリ・ハット）」を報告することを提案します。マナーアップモデル校としての成果は上がりつつあるので、「交通災害ゼロ」モデル校を目指してほしいと思います。（松原）



駅高架下の大型駐輪場から東に中央線の無い道路、シェアレーンの施工予定

(8) JR大分駅付近の再開発地域は歩道域も広く設けられていたが、自転車通行帯は特に指定されていなかった。都町東春日線からの自転車レーンを徒歩で視察しましたが、理想的モデルレーンだと感じました。設置についての経緯と効果の説明もありました。自転車のレーン利用割合は50%に満たないとのことでしたが、自動車の通行量が減り、自歩道上での事故も減り、効果も評価されるデータが出ているとのこと。

大分駅付近にはレンタサイクルの店や駐輪場もかなり充実した整備状況でした。

宇部市においても市道神原町草江線で短距離ながら設置されますが、その安全な利用が進んで、効果が広く認識され、少しずつでも延長、ネットワーク化されると理想的と思います。(小林立夫)

(9) 村上先生、お世話ご苦労様でした。あまりお手伝いできず申し訳ない。

大分市は早くから自転車に取り組んで積み重ねがあっというらやましい。特に自転車利用基本計画や Bicycle Friendly Town 錦の御旗があるのが良い。

自転車レーンはこんなものかなと思うし、交差点の処理等、混乱している所もあり、範囲の広がりも少ないと感じた。近年ソフト施策に力を入れている感がある(モデル校、ネットワーク計画 etc)。

宇部市の方が問題点を悪しき前例ととらえて、良い方向に改めることを期待する。

豊府高のまじめな取組と学生のナチュラルな思考態度はうれしかった。宇部でもこのような形で広がって行けば良いと思った(兼久威矩)

(10) 自転車ネットワーク計画については、ハード対策だけでなくソフト対策も重要であると感じた。また、計画策定するのであれば、基本計画、実行計画である自転車ネットワーク計画をハード対策、ソフト対策を一元的にとりまとめることのできる体制づくりの必要性を感じた。

モデル地区の自転車レーンについては景観に配慮した色を使用していることは参考になった。(池森)

(11) 自転車環境視察、意見交換、大分豊府高校交流に行ってきました。事故もなく、とても実り多い経験を共有できたと思います。協力ありがとうございました。

若干残念だったのが、スケジューリング検討不足で、レンタサイクルできなかつたこと、道路河川管理課からブルーシートでも借りたらもう2台くらい自転車を積めただろうことです。

高校訪問の際、9名までと指示されていて、市職員の元井氏ら3名が道路のハードを見たいと駅周辺に残ったのですが、計画担当の池森氏には、高校に同行してもらった方が良かったかなと思いました。利用者の高校生の意見や取組を知ると、将来を考えた計画につながると思います。

大分市の施策では、シェアレーンの施工を是非、市道、県道、国道の連携で進めてほしいと期待します。基本計画の基に予算をきちんと要望できて、ハード・ソフト両面で、市職員が明確な目標をもって頑張っていることは敬服する次第です。一方、ソフト面の取り組みに、市民団体の主体的参加を促すことが望まれます。



生徒会で作った啓発看板、自転車安全呼び掛けの立哨の際、外に立てる





歩道も車道も狭い国道10号線より、広いバイパスの国道210号線の方が、自転車事故が多いとのこと。